付德百人集

特別
へ5
6042

宮内省図書寮

内閣

柳園藏

花香

A5
6042

56-4086

元弾乃横田はあ曲紙きうんうと
くゝ也樽ゝ紙もとゝ来るゝあゞ
ゝあり去ゝことあ小なるも紙ハあるべき
1紙とて独式紙ハ安ゝさん大
ゝ所ゝうも弾ゝとりてゝ
なりいゝとよ代ゝの吉ゝのあやまり
事紙あゝあなゝすとあ紙也え
所逐1独式ゝハいゝにゝ
け是あゝゝのゝゝゝ紙の通にゝと

なるべしまのあるべんと思て仏法をに
して師をとくらうやまひたてまつる
師乃仏をさづり知くさてわまの仏
見あくらてあまたとしてあるんと
仏のちにたげとその行ひいてれ
又をれより先又を他の功をの仏
見ようけを陰の師のこ陰乃ふさ
法ぞ我思ふしかく精魂をたて
きぐこあげざしれを陰の道ていろ

まの所あるを四人の人乃基の
信をてをのうの人へきまの人をさる
ぐをしせくしりくこりく遠ふ
程のは人あるを事を有へいを
加こをしてを一をり十をいりかて
一ををりこを知くをを負教とハ思ひ
あるめ世中ハを魚なる人を
一をわきまへをして義をこうひ十を
いをて陰あるを横死をして西を

乃筋と思ひそめしと也　又ある人
のいとく人まの紙屏風に書くらく
四つとけく理をせりてあるよ理をき
なぐれを用にうする又ほとへをん
ゆきうある心　又ある人のいとく物
をそなうて師匠に打まもせくいけ色
をそうはうそうあるよまんをなへ
きはを師をよくかんがくられくの乃
理なりといひ三つ山一言にて前後

乃理をかゝ合點なりは　又ある
人のいとく物の師となる人あん
とよくかんをゆへきまれ前後乃
かりの式田のへ人ハ深き所式
もくさう清きを所をうれまへあり
又清きの式うに深きにいうえば式も
なりなりと　又師となる人の言ぬ
東式言うろ教へひまざるをハ
くしく又言うれまを言あうと

一物毎に物ごとに示す所以

たとへば中八たとへば初の事

たりしをありけまにいたりて

ひらかせんきかやうの人の知り

てなしゆゑ一言八ほとんど二にして三言乃

ゑりみを御物なりと　又ある人の

いとく物ごとの師と宝ん八本まれ也

らく似ゆゑ故人のいとをもて

似和様のよ所なるまとく法師

耳まの道理別まてまんくられて

知なり陶てたるもの其ときさい

ゆゑ物ならく仏く功乃法もれ程

ら此節に来きりて左ゆる事

なり是理ゆるゑ入ることいるり

ある人のいとく法の義紙流深

ゆとらくまし物ごんと思ひいつも

物の対を長しをもし理ゆて結立れ

代撰所第自中自生にあるもはるも

かなりとなく功名ありたるもいと
こゝろんいみ
ゆゑなるこゝろまたとゝのへ私の
みてくるよみあひもくのづから
ものやうもあれども大抵ものこゝろ
かなるべし枝葉ひ繁いつまても
花やうなりと又同じく私なしと風
をげしき鴻山岩瀬なとゝ海なとゝ生
わたはあるこゝをもつて病るに薬令

じてはあるこのびあるこゝ何事を
ゆるすやうに結ぶべきを明雪なり
かくもびるこゝろ義絶は一旦ゝやう
なるもゆく末久しくすの事ハ
なるべき物絶ゆるこゝろ自慢のこ
して世ハ同きこゝ年こゝもなりと
いひ世ハこの世海にさるべき事と思へ
たゝん人より功名ぞに高世ゝ事を
あのひハ世ゝなりのなり

右藝能師匠ハ人の
物語せるを聞て
書しるす也

一生ハ夏虫なれとも
しらせしてあり
なんぞ其夏の中に行る寝言を
いひくさるかと思ひ
はるる人なくいつ知るべきハ
物なれとこゝろ
うしなひ
なるまを
なるかんハ
る應ぜわく世
道と云
則くなる
和歌
疫云
なしけ
なるこゝ

物語乃ちく師の

おりふしも思ひすてゝは何をか
なまなかよいひとりてなぐさめよせん
やと思ひうちすてゝと世にさそらし
俳諧の連歌をおこうてゝひとり笑
ひもせまん物と案ずる所を取り
くや南無四天人和尚まつ小く
ひつぢあいくわぶ紙のこいひうち
をわかつて師匠をたゝきけりけく
師匠をよとわまては弟子あくんん小

まれと其法まくは世に四五百句か
らてハ人をもあまくハ月花の有所も
うつるゝす宗長らひう千句
ばかりをくハ同宗周好又ハ一句
乃ゝばかりまけりてゝに西行
や昔ハかゝるけらい小花
いひたゝめと連歌の道ハ室町殿
しくゝん合まけす尺ゝたゝす
宗鑑らひう法師名物しや

いへと百句とをはりぬれはかの人そ
南無阿弥陀仏のこゑのうちにくしく
うりてゆきぬ年とし旦ハわそはるくを
まことに連歌を知て玄貞法
師ゆゑ雖もあるましと世にあり
ゆゑされもとをれわを世にはれ曙
ひれ光翁句を三句のみ残りて俳云
をくりをれる初句をりくして来法
つぎ第乃初句そこをひやそこの

をれあるをくうをひまをの海山雪
歟第乃句をまをくあるをの海
いひをそ移んよ和和と思ひ移わま
面の反なをくれうをくきの山を
をあすハ又紅葉をいひ出きんと山く
よたくを紙ををすし紙人ををあをを
明くををよ十をををれ紙をを
山年世をあまを移くをりて海くを
をををる人京田今をあ年をり

うれきうかくおりろ記事紙人
ちらせきれんと思ひうらよ百まとおく
切ちとあのろ人三郎と称ハ
くハ人毎よ系あひく仏法法を
都鄙一統ちわもうと思人と式
毎奥をまぐ祭色されをめんくんを
くく道よ入ちりといちりも知りた
たびの書かりてを見ひりあむ
ほををくく色ちれも仏乃筋は

ゆくく相違あり記事とあり
ちりあ道

俳諧八亦一を昔より一種ある
なり今乃百句ひあるを
ふみて始ちるんと四き紙
人で誤り事を書分るり
又ある人俳句賜ハ三八ひちり
ち色紙とちれ附書く作
ちりきれを今ちをかちく

一 奮紙を書けるは いろいろあり
四季ありて 其時にんじて
詞やさしくかろく 仕るあり みな
かれる物紙あり こゝに紀物をやゝ
引くべき事なり あり紀物
ん紙あり せきき物を黒くえんを
やうに墨をあり 筆
多歌行くも二文字合く或を
なれば 或ハ掛芳紙をけみ人のゝを

あるあ物なるべく 詞紙あり紀
物に引合せるべ 紙あり
おろかなる 詞 引市ハ
ゝ一ハ捨 紀事あり
を物乃ゝより づきく 秀句よい
ゝを異あるやうに 少ゆまとも
光を上きん 紀物れを下ゝと
男女一同 物の名人の名紙
まべく多歌をくべくゝり

入なりけるハ南蛮渡りハ口きゝ風
なれと沙弟より見なをりまゝ
吉事和歌抑なぞらへてハ
たゞさゝいとハ作法といふべき
所ハあるを和歌ハ詩とちがひ
するもんかつゝさるハ五字又文字
あるを昔ハ五字
字ハ二字あまりいの例ハ
ばあり一字あまりくハよをぐ法

もあり切字なをいのあ所一句
作り添ぐるなをて七文字紙ハ九
なをすまを下あのまを也何ゝ
歌句と思ひるゝ句作りかのぐ
くるひくくハ打捻へ嘉句ゝを
一字とあぐれ紙を所ぐへもんハ
文字のまゝ
く文字紙あ
ゆれ抑なり

一脇の句ハ発句より脇句ハ
時宜相違なり紙やうに出し一時宜
ならぬなり八発句なりとなる事
発句乃仕様よくうかいく付へ
し是を脇乃事ともいくむきと
書付る事ハ人あるもあまりに
人毎ゝまぎらす事なり事なり
いうれうく付くうれん時宜相違せも
付へうすたくい付きるも時宜ぶ

たがうなれども発句より脇句
付へきまゝ乃かたくなれもなへし
初中後の時宜さへあひくしたう
ばるもくうす発句ハ和海なり
くしかの事山岳なるくしハ
岳と云事の句へ入る発句
のもくうれ脇乃句ていひくるも
四人くしくまとくうれ付やうの句ハ
もくなくうくうぬ 漢和の人初ハ

元章句ハ平字ニ成ルトテ音韻の
わるく因果ものへ一百葉書俳名
書合字ニ埴ハ事なり山口言の
俳諧用意也

一
第三さいふものとかけるハ付句乃
遠ひちがひたるハ付ん句らく
ものゝ紙ものゝ結ひ人なり腸
第三の事を出句ハ俳諧ハ
事なり

一
付合ハ言句ハ連歌用なり音外
石前ものゝ事鳥獣花月財ハ乃連句に
用ゆる事ハ皆俳ゑと定るもたるい
連句一ハ句ものゝ和なりも一句の神
連歌ハ句たるハ俳言を加へ
付合といふ和ものゝ月ものゝ
ものとあるこゝ付合ハ定ものゝ
物ものゝ付んと事ハ人のゆき
ものゝ事わる和也ものゝ付合ハ

用てらく不似合物なれ是非とも行んと
すらハあらく連句に行合て始ハ
俳事に前句にらんのまゝにあらく
ゆへて連句に行合をこの風ぐハかれあ
ぬなり又古記に行合て始ハ俗
ばくまに事にあらくしき行合て世
らやら俳諧ぐすぐるむぐ馬をしたの
たらもらくらく紙に行合と思ハ俗
ぬ事なり又あらくに紀綱の中らと

未に世まて いひくらく人紀ハえらひ
ゆく風俗小方なも同ふなり
大くる事くゆ人き拙を事ハ酒白茶
たぐこ南蠻菓子乃新敷芸能の鉦
鼓踊せまだ梅椿菊ゆりに花乃実
く（紙を見ハ人の名ハ）人の面義紙加川をいい脇ひさしまや
ちんとたらつけといふ新らしかも鄙市
ぬりものかぶきおりり人形のあや法を

大の藝ハ樣々の例を取て示す
躍を近江にてしたゝめ瘍瘡ゞ
ハ京にて寄る事ハ京ハ臭尺ハ
古歌奇念佛頌同跳新舞云古歌
ゑんぶらすりまた燒人ゑ瘡肥
前瘡ハ跳後瘡ゝ〳〵革風呂
ゑ風呂轉瘡鈎紙ハ皆色新しき是
ゑれも中ゝ古きゝ事ゝおりひなき
ゑ也用ゝ事たゝ中ゝ張ゝ

一

屋ゝす而ゝ〳〵ゑくいひゝ事も
あゝ好く世ゝ人ゝ用ゝ〳〵
ゑゝ京ゝ物ゝ同ゝ
分句ハ前句ハ詞ゝ〳〵ゑ分
ゝゝも多ゝ異ゝ〳〵一句
ゑ西行ゝ〳〵ハ二〳〵
ゑゝ〳〵〳〵〳〵〳〵
今ゝ〳〵〳〵〳〵詞ゝ〳〵
世ゝ〳〵〳〵〳〵世ゝ〳〵

行くハ細工ウルハしく見ゆ
きひしゝとめ〳〵しくもあ
はゝ〳〵行合を面に行かゝる
其行くハ獨相撲をとり中ハ死人を
の庄屋こたゝ〳〵ばゞ〳〵何ハ何ぞ
ぞと行あるハ熊白ゝ面ゝ高の連歌
ゝと嬉しき事也情〳〵新為出句〳〵舊可
用ゝ有ハ和方ハ通のかゝ〳〵のゝ通今
乃世の俳諧連方ハ句新〳〵ゝ共

ゆゝ花ゝゝゝ句〳〵ゝ紙行あゝ舞を
行ゝ事宮ゝ紙行合ゝ是ゝ那ゝ
をまゝ又ハ杜丹ゝ柳ゝゝゝ山
ゞ紙行ゝゝ句を口〳〵ゝゝゞゝめく
ハ山ゝゝゝ花ゝゝゝ舞蝶
まゝゝ紙行ゝ何も あゝゝ
きのハゝゝの昔ゝゝゝや古く
りゝゆゝゝ紙ゝゝ新しきゝゝゝ
ゝゝゝゝ紙ゝゝゝゝ用ゝハ

あまりに新きん紙
ありしかんをすれを源人しき紙人も
ちちちずひきく人とたき新き
せんくのこ出けまは毎晩ものを
きかくしん紙をするうへ人今も中
昔乃紙をあくまで用ひ同じ
なる紙りにちすり人りあり又初の
秀句をのこんにかけく行んとうり
うしはい謎ぬくらせこのさ内紙

ちちちく人きれれ慢ん紙おこすも
ありたい紙ハ大風ちうれ一句を
するゆにやちうんをちうせ
日ひとしてて俳諧乃句ハ河舟
乃ちなる地さうきたてり
やちち方いるぐすたり結合ハ
新ちも測ちうとあもやうに
橋ちし揮をちるぐちゆきう
紙ちに筋ちてきのるけまそハ

同じ所なれども、淀川
なるべし。淀川の流れかたりてゆきまゝ
をゆきにくき方と、云ひ伝へたるハ
あゝ流きるハ、やはり流れたる流れ
てをつをかゝるも深き方にハ
よりあつまりて、大昔中むかし世と
かたり来るを川の流れとなり
後を亦流れ行くべき歳月河の
流をかゝるも船のりてあつらい語る

事を流れたるや

一大昔中むかし世風俗とは世にかゝれ
らず紀道ゆきまゝ人きた先ゝ通乃
根ゝ引とこゝにいたるまゝていくびか
つらやん主をを上代の是非いとん
ゆゝすををつをかり中むかし世人
世乃人のゝ庶民べきまゝ流色
又昔後世人世にまさるいかゝでかゝ
れ風俗とをつをかり世世人ものを

乃風をよく画るかゝ其時紙を紙
まへばゆへをりいと没錢乃附
古錢をりてあつい探ざるがをり
今ら後之風俗かゝりてあ地
よりしたる第八はきもでといひをき
はるかに級人の今云あと叶ふへきれ

一大昔中ゆ連歌らい俳諧とゝ
はるか紙代の方人撰集に書張せり
先大ゆ連歌

ゆるりけう家れかりくゝり
却るあまるゆ家人の物ひ
けるなきく

あるまへの却て紙ゆるれ
みちはらくゝりあるやうん

2

りてそれ桃の花を望くれ
梅津のむめちりやまあるん
日乃ゆるゆ公れるにえみりれ

あるねさもおりひろまれし
かぶしに神のうた中昔の人百首の
連歌にさたあるく世にひろあるや
しく始るゆきはしらげまもさも
ゆくすゑのくんたるあり

一大昔に俳諧奇とは

梅のさかりにんたにきこえ當乃
ひくくをいろひろまれ
山ぶきの花いろ衣あるやうに

ゆくえもしらぬ人をたづねて
林の野よりまゐる女郎花
あるかうの花を一対
是をさかりに一神にして今の世乃俳諧也
いつれも昔別の神なりとかいはは
物をかに連ぶうこいしまぬ也是俳諧
こいへばとて昔をかくそこいはまき
まへかたの人のうた

一中昔の人のうき神をあるあるあ

[illegible]とのせん連句さう
かたりうり俳諧の連句も中昔のさ
うに成り風体同意前句のうさ
一句のさうたるべきのこと

一中昔せん連句

花の人へうとれ[illegible]れ
いつくもりしりくかれん吉野山
雪ぬの[illegible]はる山にうぐいす
富士の[illegible]さ人へのかちもゆうて

花に吉野　雪に富士　月に更科
紅葉に龍田　尚無埋山を合せり
[illegible]
雪なくば[illegible]
[illegible]

一中昔せん俳諧連歌

基[illegible]ある人をかつて[illegible]
[illegible]
[illegible]

金銀を方にあまり経拍子に
見ハとの母ハ婚ハ用ハ
古人と云れと名を理ます
古人を塚のわりに大言う
は前ハ乾門原と土理骨名不理
ハ詩のうるハ人れ土塚ハ
ハるハ同言と大言ハあまり知
黄代ハいうと蛙あまりて
軍をすまき浮宮やする

軍ハ白人間のうハいで前ハ
うるハあるうと人の軍ハすうく
蛙のあるまるや謂ると蛙乃軍と
ハるハ用ハしうるの知らは類
多しかるハ軍と云白あうで元
なしに蛙ハハるハ人き事と学
に二の蛙ハるも同数見ハう蛙
ハうるり
碁盤乃上ハ書き来に考り

鶯の巣こもりと云後へりぬ
是ハ諸甚の手にならせ也
ある般さやうにさるのまゝ
うけりかさくまてかさし
古まて八一句の気めくりたくさ雑也けり
や細く心得く昔とのかくりめ紙
思ひとく思し昔の手跡こといへ共
ある之時代相應の分別あまとく
これく半書ときける独也

後しにぬけり人のまゝあま
百句に一巻紙のあせくらし
あり乃黒雲紙なりしあるは為
てゝ式目毎ゟ紀而第遠
ありふ連歌の用へき事の式法
きいて用ゆかそと四季新
時めきくつかけける

一 俳諧の式目和漢連歌の法をとら
ゆるしたる和漢の式目いふへしとの

たゞしあるいは山部赤人遊仙窟
の句法をとりて行句にも和漢
を混ずる物まれ所謂二句同じくされ
さるゆゑに南無阿弥陀仏ハ和漢ハ和漢
格合なりて行んをを指南せり
されどこれをとり俳諧もたゞ南無の
和漢共法華用ゐる所ハ婦人和漢
衰者なり同じく句法ハ婦人和漢を
七句去 但和語にハ二句 七句の和を五句

去又句の和ハ二句ハ婦ひ三句の和を二句
婦ふを季をを五句去るをへ
月花ハ常共連歌同じ也
一 和漢の時ハ七句の和五句共和ハ本式乃
連歌の句をく同じ也七句婦ふ和
乃句季をを和
の事を長歌ハ五句婦ふ和の内同字
なるをふ漢ハ文字共あるひ自由
事高ばくしてハ安くなるを同字

なりと見るへし それよりハ其まゝ五句
嫌ハ有りける物也 漢句ハ百句の内
同字のきらひなとより字紙嫌ハす
されハ連ハ同字を五句去に定まる
なるを俳諧ハ文字のあつかひ自由なる連
をこのみ如何やうにもせんなき季にも季も
五句去り用捨也 如何やうにもいかきまゝ人
なくてハ 和漢の法にもかなふへからさる
事也 予か 俳事なるへし

一 古事本説此句にて遣ふ 此季ハ用ゆる
ものなり 萬の古事日本の
事をいふなり 唐土異國の古事
何として四季にかゝはらんや連歌にも
伊勢物語源氏物のことくにても季の沙汰
古歌なし 但季の詞加へてこれたとひ
古事の時も相違ありとも其詞を
ひくへし 同しくハ古事の時ならす
あひなる詞を加へき事也 風鳴軍也

いひても言にかゝす平敷事とい
ふこと有しかしを但風流軍ゝ
林の句ゝ紙いひこんなかゝ
一
持合をおがんだん南世ゆんくゝ
書ゝゝゝゝゝゝ句あまくゝあり右書付
句ゝゝゝゝゝ林ゝ編ゝ句ゝゝゝゝ三句
の物ハ二句ゝゝゝれゝ宝ゝゝ記事ゝ
連歌乃武目をんくゝもまゝゝ事ゝ
句ゝゝゝ連ゝゝにハけやけきゝて

林ゝ編ゝ句ゝ郷語ゝゝゝゝ
句ゝゝゝゝ詞ゝゝゝ用ゝ
ゆゝゝゝゝゝ事ゝゝゝゝゝゝゝ
四ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
風ゝ宝ゝハ三句ゝ事也
一
連ゝ一ゝゝ百乃句ゝゝゝ二ゝの句
ゝ四ゝ四の句ハ八ゝ風ゝこれ品ゝ書
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
連ゝにゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

乃和八五月と云うこと云へいろ
きの一形を隠戸へきやみあり月の和を
うるおうてにあり いるまの形うう表
毒をありて いはまうろうあり一月元
あらんや如きの種ひやうのかりうは
理解せめて同月へきまを非と理
ひうてんうまうれ稲うり
あまりて理解ふくひうるハ入うく
あくく唯うまうてかうくの

一連歌に一月の和俳諧うるうり
始まりも二月ハ年ようりて一月と重ふ
形の人へ一ひうてすぐれて他の
仕方うるもべ理解ふあうす二月
の和を四月と云うハ和を人の種ふ
毎うるうり連句武法も他
うるうり唯ぶへと申れにうぶ
へうり年あまりある地ふ和りく
うの出毎形まうり

[illegible]

一

二匁の物二匁嬙ゝ物打紙嬙ゝ物と
ある様物々の時只まぎれ事二匁の物
を砂打するとの事屋敷に入れた二匁乃
物とてかるき屋敷と屋敷一分くもと又
二匁〳〵〳〵を屋敷と出入死なり生
新地物るもの出新ゝ二匁嬙ゝ
物と云ハ分る事もなくと条り

[illegible]

嬙ゝ物ハ分て[illegible]す打紙ぐら
ゝ嬙也又分匁紙嬙ゝと物をうち
ゝハくるゝ

一

指合又匁数の法をもゆるといはば
物々の時乃事ゝ[illegible]遣り入くを
ゝ[illegible]用ゆき事なるゝ〳〵たゝひ
一度ゝ一分の物ゝたゝひ
匁ゝ[illegible]ゝ二分をゝ[illegible]

二月乃和とも一のわと二のわと
迄くこいのうへ
折ゝ毎ごとて白紙をいひくさん
八年ゝ毎月ゝ知てゝ
たゝかんくの
武法乃まくこいつゝきあまり
ゝ
ゝくにゝて功ゝ
ゝ
ゝ連歌のゝ連ゝ指合の
ゝて書をゝ

けまとの御筆跡加給ひしとうあ反
れくすけの人おを見せるるのと
とハ又かなしきめるる和くあれど
事の紙ハ人き紙ひまもあるれも
いよくそれの筆をそて仏さめ
く涯万歳といひとりぬ

義應二　仲秋吉辰　主園

秋野信童雅よ

アナキ